

岡山で学び活躍を

COC+ 推進協 人材育成へシンポ

県内の大学や企業、自治体などをつくる連携組織「おかやまCOC+推進協議会」(代表・県立大)は18日、地域で学び、活躍する人材の育成をテーマにしたシンポジウムを岡山市内で開いた。学生の地元定着を図る大学を国が支援する「地(知)の拠点大学」による地方創生推進事業(COC+)の一環。

パネルディスカッションがあり、地域での長期インターンシップ(就業体験)に取り組



んだ学生4人と、受け入れた自治体、企業の代表者が登壇。学生は「自ら率先して行動することが大切と分かった」「視野が広がった」

地域で学び、活躍する人材育成について考えたシンポジウム

た」などと成果を報告し、受け入れ側からは「組織内での意識共有や、大学側とより連携を密にする必要がある」といった課題も指摘された。

コメントーターを務めた東北学院大の松崎光弘特任教授は「学生は体験だけで終わらせず、多様な角度から議論を深め、体験の意義付けをしてほしい」と総括した。関係者ら約220人が聴いた。

シンポは、県立大の講義「岡山創生学」で学んだ学生に与えられる称号「地域創生推進士」候補者が企画・運営に携わり、候補者によるポスター発表もあった。(伊丹友香)